

[Faint, mostly illegible handwritten text in vertical columns]

御相侍臣致合

建永元年七月十五日

式類

大納言藤原忠皮

海通月

羈中暮

作者

左方

御製

勝二持一

内大臣

員二勝一

前大僧正慈円

勝二持一

前大納言藤原忠皮

持二員一

左衛門督源通光

勝員持

卷四十四

中納言藤原公經 勝三

權中納言源通具 勝二員一

森議藤原良平 勝一持二

正二位藤原季能 勝二持一

俊成卿女 勝一員二

右方

宮内卿藤原家隆 持一員二

大藏卿藤原有家 勝二員一

左近權中將藤原定家 勝二持一

越前 勝一持二

左衛門尉藤原秀能 員勝持

右近權少將源具親 員三

丹後 員二勝一

散位藤原保季 員一持二

小比叡祢直祝部成茂 員二持一

左近權少將藤原雅經 勝二員一

講師 右

讀師 右

判衆 淺

詞宸 葦 後日被下之

二番

左勝

前大僧正兼右

頭病よりまじりて此等らひて誰袖うつと秋の上葉水

右

左近衛中納言兼左近衛

あまのこころ業のむかひ病のこころは涙をさすといひ

右方より顔をかきゆりて

左方よりあまのこころは涙をさすといひ

あまのこころは涙をさすといひ

三番

左指

前大納言兼左近衛

黒おれは色は髪の小くは糸のたす麻もあまのこころ

古

越前

背よりあまのこころは涙をさすといひ

左方よりあまのこころは涙をさすといひ

右方よりあまのこころは涙をさすといひ

あまのこころは涙をさすといひ

左方陳り髪の小くは糸のたす麻もあまのこころ

五番

左勝

左近衛通光

あまのこころは涙をさすといひ

左方陣中より来る者ありて海より来りては
あきあきと一層のまじりあはれり
たまたまわく海をもちておりのまじり
あきあきとものなるたはのまじり
たまたまのまじり

八番

左膳

春議藤原良平

小舟とらとれどとるの教へまじりてあきあきと
あきあきと

右

散位藤原保季

あきあきとあきあきとあきあきとあきあきと

あきあきとあきあきとあきあきとあきあきと

九番

左膳

正三位藤原季融

あきあきとあきあきとあきあきとあきあきと

右

小比叡祢直祝初成茂

あきあきとあきあきとあきあきとあきあきと

左方より来る者ありて海より来りては

あきあきとあきあきとあきあきとあきあきと

十番

十右指

後成御女

あふふら海をむす立好の産産とけし袖の色にふと

右

右近指中将藤原雅恒

おのまらけと花をみけ日秋より海を渡るもや藤原

ちかよのせと云願いしをり

左のちかよとて地は海を渡るも花あふ

よの海を渡るも

十一番 海邊月

左持

御製

おはるにふ人よみけはえまうしと花あふささる月

右

象隆御后

輝る月をよと海をむする赤めしと花あふささる月

左のちかよとて地は海を渡るも花あふ

後(ちかよ)とて地は海を渡るも花あふ

おのちかよとて地は海を渡るも

十二番

左持

田大右

あふの月吹くらと海をむする赤めしと花あふささる月

右

有象御后

おのちかよとて地は海を渡るも花あふささる月

右方中へいりくおやうとていふまじき事なり
おとよのうへ方中へおとよのうへ

十二書

凡お

前大僧正

和方中へいりくおやうとていふまじき事なり
右 定家朝臣

りほし袖の月影おのひらふまじき事なり
左たぬ方を堂にもおとよのうへ

十書

凡持

前大納言

浦子月影おのひらふまじき事なり
右 越前

秋さきもはつきのうへ方中へいりくおやうとていふまじき事なり

右方中へいりくおやうとていふまじき事なり
右方中へいりくおやうとていふまじき事なり

緑さきもはつきのうへ方中へいりくおやうとていふまじき事なり
右方中へいりくおやうとていふまじき事なり

祝書ふいりくおやうとていふまじき事なり
右方中へいりくおやうとていふまじき事なり

未白願祝守ふいりくおやうとていふまじき事なり

ほろぬぐはののれ神まをさうさうんあつら
右方に申さるめふ秋といふ事もあつてあ
たう来り有願玉のちとさうめへ右
方と申さる

十八番

左指

桑様

あまのすさのおまのやまの夜をれはあまの
右 保季胡臣
黒のぬぐはののれ神まをさうさうん
左方申さるあつらさうさうん

上日乃のぬぐはののれ神まをさうさうん
はさうさうのぬぐはののれ神まをさうさうん
すてさうさうのぬぐはののれ神まをさうさうん
言不具のぬぐはののれ神まをさうさうん

十九番

左指

正三位

あまのすさのおまのやまの夜をれはあまの
右 祝部成茂

あまのすさのおまのやまの夜をれはあまの
左方申さるあつらさうさうん

石方申云作者よめり以憑てまづり後

北番

左

後成卿女

大さくは乃ち多くさうなも月ありれ舞のうらも

右勝

雅鍾船后

里乃ありれ神さけぬ彩公えんさうの波のあり後乃月

左方申云来句めりうさうは家あり右方申

云来句うせさうさう

北一編 舞中暮

左勝

御製

とさるさ月うさうびんまは生のよたれありし袖のたれを

右勝

家隆胡后

独とむらうまきとて者まき入おの存おるゆせ

右方申云うらうさうまき申之

北二番

左

因大后

清さるぬはさうさうははさうひさやうの谷河乃水

右勝

有家胡后

都人よめぬあははりうさうさうさうさうさうさう

右方申云来句めりうさうさうさうさうさう

北六番

右膳

中納言

手紙の御返り申上り候事

古

具親

御進上候御返り申上り候事

右方申上り候事

廿七番

右

權中納言

若くは御返り申上り候事

右膳

丹後

御返り申上り候事

右方申上り候事

左方陳云候事

右方申上り候事

右方申上り候事

右方申上り候事

北八番

左持

系議

右方申上り候事

右

保季

ふはせりいふらやふしきふれぬそしはかきけりあひか
らふもやふとくははれあふふとくふ
右方の中云末句又むむふううううう
お八番 うんまきううう

北九番

右指

露ふけてるよるのふる事ふらふと
右 祝部成茂

ふしゆく輝の波れ文とふふあふふふふふふふふふ
右方中云上句とあふふふふふふふふふ

らう通左方中云右字は上句とふ事あ

ひよをなう

二十番

尾

俊成卿女

取郷も秋ハ夕とつてふもあふあふふふふふふふふ

右膝

雅經

いたつふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
西方殊よりうもふふふふふふふふふふふふふ
やあふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
申之

鴨津社社額合 建永二年三月七日
 題 齋川 大原社社額合
 山表胡霞 湖邊之花
 社額述懐
 作者 山表胡霞
 正三位行権大納言源朝臣通光
 大藏卿正四位下藤原朝臣有教
 正四位下行允近衛権中將有教
 系大僧正慈因

鴨津社社額合 建永二年三月七日
 題 齋川 大原社社額合
 山表胡霞 湖邊之花
 社額述懐
 作者 山表胡霞
 正三位行権大納言源朝臣通光
 大藏卿正四位下藤原朝臣有教
 正四位下行允近衛権中將有教
 系大僧正慈因